

JAFIA 創立 30 周年を迎えて

JAFIA 委員長 今任 稔彦
(九州大学大学院工学研究院)



公益社団法人日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会 (The Japanese Association for Flow Injection Analysis, JAFIA) は、石橋信彦教授 (九州大学) を世話人代表として 1984 年 1 月に前身のフローインジェクション研究会として発足しましてから、来年の 1 月には創立 30 周年を迎えることになります。本研究懇談会の機関誌であります Journal of Flow Injection Analysis (FIA 研究懇談会会誌) が 1984 年 6 月に 1 巻 1 号として発刊されて、本号は 30 巻 1 号となります。このような節目を迎えることができますのは、歴代の委員長をはじめとし、会員の皆様並びに関係者の皆様方のこれまでの温かいご協力、ご支援の賜物と存じます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本誌 20 巻 1 号並びに 25 巻 1 号の巻頭言に、当時の JAFIA の委員長でありました本水昌二教授 (岡山大学) 並びに酒井忠雄教授 (愛知工業大学) により創立 20 周年並びに 25 周年を迎えてのご挨拶が述べられています。本研究懇談会の前身でありますフローインジェクション研究会の発足当時の目的は、我が国における FIA 法の進歩と普及に貢献しようとするものでした。当時、ハードとしての FIA 装置は、液クロ用のポンプやインジェクタと検出器を組み合わせた、いわゆる手作りの装置でしたが、この 30 年の間に多くの分析機器メーカー及び研究者のご努力により FIA 用の装置として市販化されるとともに、第二世代、第三世代の FIA 法ともいわれる Sequential Injection Analysis、Bead Injection Analysis や Multisyringe Flow Injection Analysis などの新しいアイデアがつぎつぎに提案されるとともに、コンピューターで自動化された FIA 装置も開発されてまいりました。また、FIA 法の普及として重要な要因の一つは、公定法化であります。1989 年の JIA K 0126「フローインジェクション分析通則」制定以来、念願でありました公定法化が、2011 年 3 月に JIS K 0170「流れ分析法による水質試験方法」として行われましたことは、本研究懇談会の大きな喜びであります。同時に、関係各位のご努力に敬意を払うとともに厚く御礼申し上げます。

本研究懇談会のもう一つの目標でありました、国際化に対して大きなご尽力をなされたのは、本水昌二委員長と酒井忠雄委員長であります。本水委員長時代の 1995 年には、Christian 教授によって行われていました International Conference on Flow Injection Analysis (ICFIA) が初めて本研究懇談会との共同で開催されました。それ以来、この国際会議は毎回本研究懇談会との共催で行われています。特に、2008 年 9 月には、本研究懇談会創立 25 周年記念に併せて、酒井忠雄先生を実行委員長とする第 15 回 ICFIA が名古屋で開催されましたのは記憶に新しいものです。来年 2014 年には、本研究懇談会創立 30 周年記念に併せて、第 19 回 ICFIA が福岡で開催される予定となっています。本研究懇談会がますます活発に国際的にも活動の場を広げ、国内の流れ分析法がますます普及・発展していくことを祈念しています。また、講演会や会誌による情報発信、国際会議への積極的な参加などを通じて、皆さまでともに本研究懇談会をますます活発なものにしていきたいと存じますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。